



第21回例会報告(11月27日)

【出席報告】

・会員数	59名	・出席数	40名	・欠席数	19名
・当日出席率	80.85%	・前々回修正出席率	88.00%		
<欠席会員> 檜垣(巧)、飯沼、小堀、近藤(浩)、松田、尾越、竹田、田中、渡邊(一)					
〔免除会員〕 青野、原(真)、原田、門田、松本、宮本、村上(敬)、佐伯、坂本、八木					
<11/13欠席補填> (11/4今治南)吉良 (11/10今治北)檜垣(圭)、光藤、矢野 (11/11IAC)松田					
(11/11今治南)尾越 (11/16第2630地区大会)飯 (11/18IAC)田中、吉武 (11/18松山)村上(裕)					
(11/25今治南)檜垣(巧)、久米、栗西、渡辺(易) (11/26東予)大澤					

会長報告・今治RC元パスト会長 曾我部照夫様のご逝去されました。ご冥福をお祈りし黙禱を捧げたいと思います。

幹事報告・ロータリーレート変更のお知らせ：現在1ドル100円が、12月より96円に変更となります。
 ・IM登録の切は今月末ですのでご出欠をご確認下さい。地区大会本登録のご確認もよろしくお願い致します。(地区大会登録は2月10日までは変更可能。それ以降登録料の返金はできませんのでご注意下さい。)
 ・その他、忘年夜間例会のご案内、他

親睦活動委員会報告・ゴルフ同好会よりお知らせ：第2回今治RCゴルフコンペ 12月23日(火)祝日、今治CCにて開催。集合8時10分、スタート8時47分

ロータリー財団委員会アワー

村上裕一ロータリー財団委員長：1917年に、アーチ・C・クランフという国際ロータリー会長が、「世界でいいことをするために」基金の設置を提案しました。ロータリーの資料を基に話しますが、あら探しをすると、国際ロータリーになったのは22年です。28年、5,000ドルにまでたまったこの基金は、「ロータリー財団」と名づけられ、国際ロータリーから独立した別機関となりました。その2年後、財団が初めて補助金として、国際障害児協会へ500ドルを贈りました。国際障害児協会は、ロータリアンだったエドガー・F・アレンが設立した組織で、後に発展してイースターシールズとなりました。イースターシールズは、2670地区が継続的に寄付している(米国ニュージャージー州の)キャンプメリーハートを運営しています。47年にポール・P・ハリスが亡くなって、多くの方から国際ロータリーへ寄付が寄せられ、財団をさらに大きくするために「ポール・ハリス記念基金」が設置されました。この時から各種プログラムがスタートしました。最初の寄付は17年の26ドル50¢ですが、2003-2004年度には7,000万ドルを上回る額が集まっており、累積で10億ドル以上だそうです。年次プログラム基金に1,000ドルを寄付した個人、またはその名義で寄付が行われた人に与えられる称号がポール・ハリス・フェローです。複数回寄付された方はマルチプル・ポール・ハリス・フェローと呼ばれます。



プログラムは大きく分けて教育的プログラムと人道的補助金プログラム、ポリオ・プラス・プログラムの三つがあります。一つ目の教育的プログラムは、国際親善奨学金と研究グループ交換、ロータリー世界平和フェローシップ、大学教員のためのロータリー補助金の四つです。二つ目の人道的補助金プログラムは、災害復興と地区補助金、保健、飢餓追放および人間性尊重(3-H)補助金、マッチング・グラント、ボランティア奉仕活動補助金の五つです。三つ目のポリオ・プラス・プログラムは、ロータリーの歴史で最も大掛かりなプログラムだそうです。ポリオ撲滅に向けた世界的な協同運動で、ボランティアの最大の担い手として貢献しています。ロータリーは20年以上、民間部門のリーダー的役割を果たしてきました。ポリオ・プラスは、ポリオに加えハシカ、百日ぜき、ジフテリア、破傷風、結核の予防を推進しています。ロータリー財団では、ゲイツ財団から補助金1億ドルを受領しましたが、07年12月1日から3年間かけて同額を集める活動をしています。ご協力をお願いします。

<ビジター> 宇佐ロータリークラブ 川中賢一様

次回例会(12月4日)

【クラブ奉仕委員会アワー】 会員増強・会員選考・職業分類委員会

<会員誕生祝> 平尾 浩一郎氏(12/9)
 [笹]